

リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立鹿児島商業高等学校（鹿児島県）【指定校】

【取組内容】「情報活用能力調査」の実施

1. 調査の概要

この調査は、兵庫教育大学の研究紀要（第57巻 2020年9月 pp.65-75, 「高校生のICTに対する苦手意識と情報活用実践力および自己効力感との関連性」）を参考に、アンケート機能を用いて生徒の情報活用能力を評価し、指導に活用するためのもので、成績には関係なく、生徒が自身の情報活用や実践について率直に回答する形式（質問数101問）となっている。

2. 調査結果の分析

調査結果は、以下の4段階評価で示されている。

4：とてもあてはまる 3：少しあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない
具体的な調査項目や結果の概要は次項に記載されているが、ここでは主な傾向と考察を示す。

3. 主な傾向

情報の信頼性判断: 多くの生徒が情報の信頼性を判断する能力について「とてもあてはまる」または「少しあてはまる」と回答しており、情報リテラシー教育の効果が見られる。

デジタルツールの活用: 生徒の多くがデジタルツールを活用して情報を収集・分析する能力について高い評価をしている。これは、授業でのICT活用が進んでいることを示している。

自主学習の意欲: 自主的に学習する意欲についても高い評価が見られ、生徒が積極的に情報を活用して学習していることが伺える。

4. 考察

教育の効果: 調査結果から、情報リテラシー教育やICT活用の取り組みが生徒の情報活用能力向上に寄与していることが確認された。特に、情報の信頼性を判断する能力やデジタルツールの活用能力が向上している点は、今後の教育活動においても重要な成果である。

課題と改善点: 全ての生徒が高い評価をしているわけではなく、一部の生徒に対してはさらなる支援が必要である。特に、情報の信頼性判断やデジタルツールの活用において「あまりあてはまらない」や「まったくあてはまらない」と回答した生徒に対しては、個別の指導やサポートが求められる。

今後の取り組みと対応について: 今後も継続的に情報リテラシー教育を強化し、全ての生徒が高い情報活用能力を身につけられるよう、教育内容の充実と教員の研修を進めていく必要があると共通理解を図った。また、生徒の自主学習を支援するためのオンライン教材や学習アプリの充実も重要と考えている。

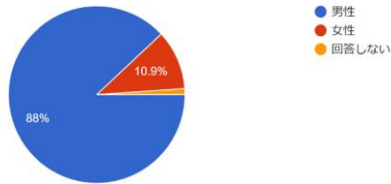
リーディングDXスクール事業【実践事例】

鹿児島市立鹿児島商業高等学校（鹿児島県）【指定校】

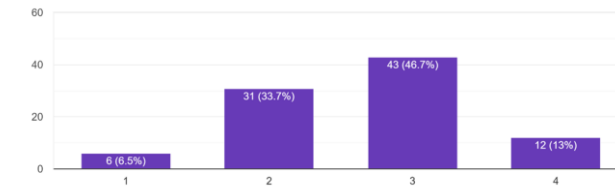
【取組内容】「情報活用能力調査」の実施

質問内容と結果（一部抜粋）

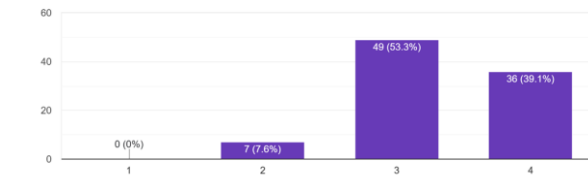
性別を教えてください。回答したくない場合は「回答しない」を選択してください。
92件の回答



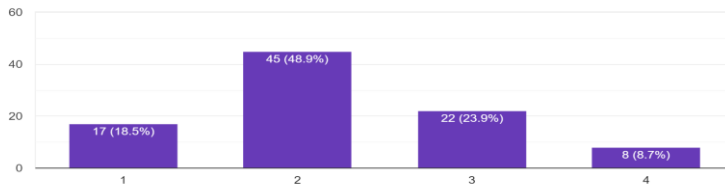
(6) 制作した作品は、友達やクラスの人々に認めてもらえると思う。
92件の回答



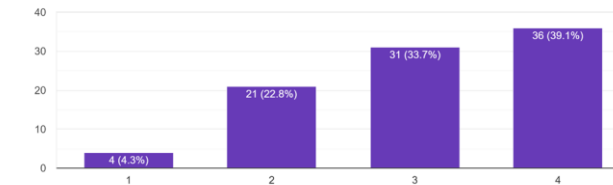
(7) 課題を解決するために、先生の話をしっかり聞いたり、プリントをしっかり読むようにしている。
92件の回答



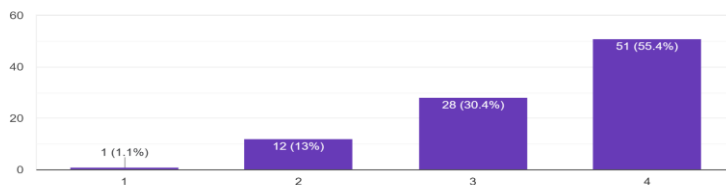
(16) 課題に取り組んでいるときに、失敗するとよけいにやる気がわいてくる。
92件の回答



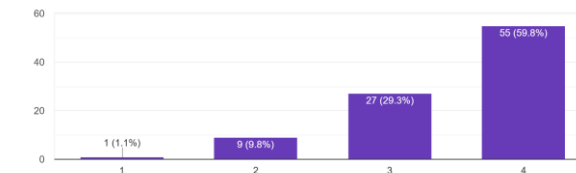
(20) 家族や友人等にパソコンの操作について教えてあげられるようになりたい。
92件の回答



(26) 学習したことを将来の生活に役立てられるようになりたい。
92件の回答



(35) 自分でコンピュータやインターネットを使うときは情報モラルを守れる人になりたいと思う。
92件の回答



選択肢の凡例

- 4：とてもあてはまる
- 3：少しあてはまる
- 2：あまりあてはまらない
- 1：まったくあてはまらない